【日　程　表】

月日	時間	内容
7/27(木)	15:00	焼津市役所から専用バスで羽田空港へ出発
	22:10	羽田空港からカンタス航空でメルボルン空港へ出発 【機内泊】
7/28(金)	9:40	メルボルン空港到着
	15:05	メルボルン空港からカンタス航空でホバート空港へ出発
	16:20	ホバート空港到着 空港に迎えに来てくれたホストファミリーと対面 各自ホストファミリー宅へ 【ホームステイ】
7/29(土)	終日	ホストファミリーデイ 【ホームステイ】
7/30(日)	終日	ホストファミリーデイ 【ホームステイ】
7/31(月)	8:40-15:20	ホストスクールデイ 【ホームステイ】
8/1(火)	8:40-15:20	ホストスクールデイ 【ホームステイ】
8/2(水)	8:40-16:30	市長表敬訪問 ホバート市役所見学 タスマニア大学海洋・南極学研究所（IMAS）見学 タスマニア博物・美術館（TMAG）見学 【ホームステイ】
8/3(木)	8:00	全員マウントカーメルカレッジ集合、お別れのあいさつ
	10:30	ホバート空港へ ・ホバート空港からカンタス航空でシドニー空港へ出発 ・シドニー空港到着後にシドニー市内観光
	20:20	シドニー空港からカンタス航空で羽田空港へ出発 【機内泊】
8/4(金)	5:25	羽田空港到着
	7:00	羽田空港から専用バスで焼津市へ出発
	11:00	焼津市役所到着

報告書

焼津市からホバート市へ派遣された15名の学生が、現地での貴重な体験を報告します。

題名　ホバート留学

学校名：藤枝西高校　学年：2 年　氏名:海野来太

こんにちは、海野来太です。オーストラリア・タスマニア州のホバート市での留学体験は、私にとって一生忘れられない思い出となりました。ホバート学生短期派遣事業への参加は、日本の焼津市が主催し、中高生 15 名が派遣されるプロジェクトでした。この留学の目的は、ホバートの豊かな自然や生き物を観察することで、学びと感動がたくさん詰まった素晴らしい経験となりました。

ホバートへの飛行機の移動では、飛行機内が寒かったため、上着があったほうが良かったと感じました。オーストラリアへ向かう長いフライトでは、快適な装備が必要だということを実感しました。

ホバートでの生活は、ホストファミリーのもとでのホームステイが中心でした。自然に囲まれた環境で、羊やニワトリが飼われている家に滞在することで、地元の暮らしや伝統、文化を身近に体験することができました。薪ストーブを使って暖を取る生活は、日本とは異なる新しい体験でした。

また、ホストシスターの学校に 2 日間通学する機会もありました。その学校は多国籍な留学生が集まる自由な環境で、異なる文化や言語に触れながら、英語力の向上を図りました。授業や地元の学校生活に参加することで、英語だけでなく、異なる考え方や価値観にも触れることができました。

観光活動も充実しており、ホバートの魅力的な観光スポットを訪れました。サラマンカマーケットやウェリントン山の登山、地元の料理を味わうことで、地域の豊かな文化や風景を堪能しました。地元の調味料であるベジマイトは、初めて臭いを嗅いだ時はその強烈な臭いに驚きましたが、実際にパンにバターと一緒に塗って味わってみると、深い味わいで美味しかったです。

この留学で、英語力の不足を実感しつつも、多くの貴重な体験を通じて成長することができました。将来は、さらなる英語力の向上を目指し、世界中の自然や生き物を観察する旅に出たいと思っています。この留学経験が私の人生における重要な一歩となり、これからの未来に向けて大きな影響を与えてくれることでしょう。

題名　新たな自分への道へ

学校名：藤枝東高校　　学年：2年　　氏名：加藤葉太

ホバートでの10日間は、今までのどんな時よりも楽しくて、刺激的で充実した貴重な日々を過ごしました。初めは、不安でいっぱいでさらに初めての海外ということで恐怖に襲われていました。でも今振り返ってみるとあっという間の10日間でもうちょっとだけホバートに残りたいとも思えました。
ホバートに行き、初日、2日目は、ホストファミリーと、サラマンカマーケットで買い物をしたり、ボタニカルパークでタスマニアンデビルやカンガルーに直接触ったりしました。サラマンカマーケットでは、店の人がすごいフレンドリーでたくさん話しかけてくれて自分の緊張も解け、その後を思いっきり楽しむことができました。ボタニカルパークでは、オーストラリアにしか生息していない動物だったりいろいろな種類の生き物に触れ、ホバートの雄大な自然も感じることができました。2日目は、朝ビーチに行き、そこから少し歩いて、シュートヒルという所に行きました。昔ここでは、銃の弾をつくっていたらしく、少し歴史を感じることもできました。
歩いたあとは、浜辺でBBQをして、一つ一つの物がとてもでかくて、お腹いっぱいになっちゃいました。その日の夜は、日本から持っていったお土産を渡して、日本のことやオーストラリアの事をたくさん聞いて、過ごしました。自分は、お菓子や急須と茶葉を持っていって日本のお茶がすごい喜んでもらって、嬉しかったです。この2日間でホストファミリーとの仲も縮んで、自分も英語でのコミュニケーションにも慣れてきて、話せるようにだんだんとなっていけてとても楽しかったです。
3日目から2日間は、ホバートカレッジに行き、実際の授業を受けました。ホバートの学校は、日本とは全く違って、まず校舎が日本の2、3倍くらい広くて、カフェテリアもありました。体育館の壁には、ボルダリングがあり、授業でやりました。授業の休み時間には、色んな人から話しかけられて、日本の高校生活についてだったり授業で何してるのだったり聞かれました。日本みたいな授業もあるけれど自由度の高めな授業も多かったです。夜には、ホストシスターと一緒に学校探索をしました。
今回のホバートへの短期学生派遣を通して、ホストファミリーやホバートカレッジの学生など様々な人に出会い、ホストシスターとは帰国した後も、連絡を取り続けています。このように、自分の交流の輪を広げていくことは、自分の将来を豊かにしていくと思います。だから、今回ホバートへの学生派遣事業に参加することができて本当に良かったと思います。今回のプログラムを企画してくださった焼津市職員皆様、旅行会社が引率してくださった椎名先生そして私たちを受け入れてくださったホバート市の方々、そして、家族の一員として、受け入れてくれたホストファミリーへ感謝を伝えたいです。本当にありがとうございました。
次の目標は、英語をもっと上手くなってホストファミリーに再び会いに行くことです！

題名 夢への１歩

学校名：焼津水産高等学校　　学年：１年　　氏名:川嶋愛生

私はこの９日間でとても楽しく貴重な体験ができました。初めてのことだらけな海外で最初はすごく不安でした。ですが、ホストファミリーはとても優しい方で笑顔で迎えてくれたのでホッとして、とても楽しく不安な気持ちも無くなりました。私は短期学生派遣留学に行く上での目標が２つありました。

１つ目は、コミュニケーションをとることです。1.2日目はホストシスター達が話す英語はスピードも早くオーストラリアの発音もあり聞き取るのがとても大変でした。自分が言いたいこともなかなか理解して貰えずとても苦戦しました。でも、毎日ホストシスター達と過ごし、相手の言いたいことを理解できるようになったり自分の食べたいもの、行きたいところなどはっきり言うことができ、会話がとても弾みました。私は将来海外と関わりのある国際的な仕事に就きたいと思っています。その仕事に就くためにはコミュニケーションをとることが１番大事だと思います。また、たくさんの人とコミュニケーションをとるという楽しさを学ぶ事ができました。

２つ目は日本との違いを学ぶことです。オーストラリアの学校ではみんなフレンドリーで会った時には元気よく日本語で自己紹介をしてくれました。習った日本語を使って頑張って会話をしてくれて私はとても嬉しい気持ちになりました。授業内では主体性が求められていると感じました。自ら意見をどんどん発表しそれについて話し合うというスタイルでした。学校には優しい子がたくさんいて、私が理解できず困っているとゆっくり話してくれたり、翻訳して見せてくれたりしました。そのおかげで楽しく学校に通うことができました。また、日本の学校とは異なりおやつの時間あり外に出てみんなで輪を作ってホストシスターが用意してくれたスナックを食べました。みんなで笑いながらお話して食べたスナックはいつもより美味しく感じました。日本の学校にもおやつの時間があったらいいなと思いました。学校帰りにはスーパーに行きました。スーパーはとても広く品揃えがすごく良かったです。日本と車の規定速度が異なりとても早くて最初は怖くてびっくりしてました。道路は信号機が少なく、カーブが多かったです。家はとても広く夜はリビングからとても美しい夜景を見ることができました。私の部屋をホストファミリーが用意してくださり、毎日快適に過ごすことが出来ました。毎日お風呂に入らないことや就寝時間が早いことにもとても驚きました。学校や家、お店など日本との違いが沢山あり慣れない生活だったけど、オーストラリアの文化について知ることが出来てとてもよかったです。

私はこの経験を通し将来について考え直す第１歩を踏み出すことができました。大人になったらオーストラリアのホバート市にもう一度行きたいです。

題名　　最高の9日間

学校名：焼津市立豊田中学校　　学年：2年　　氏名：栗本　翔平

私はこの短期学生派遣事業で数多くの貴重な体験をすることができました。私は11歳から約2年間オランダに住んでいて、日本とは違う文化や環境の中で過ごしました。オランダでは楽しい時間を過ごすことができ、外国の良さや日本の良さがよくわかりました。オランダから帰ってきて、また海外に行きたいと思い、オランダでの生活をきっかけに短期学生派遣事業に参加しようと思いました。

ホストファミリーのHannahとMaxとの最初の2日間はとても楽しい時間となり、特に印象に残っているのはスケートリンクに行ったことと、誕生日パーティーとウェリントン山に登ったことです。初日には、Maxが経営するスケートリンクに連れて行ってもらい、ローラーブレードとホッケーをしました。MaxとHannahの試合はどちらも見ました。Maxはタスマニアで1位か2位を争うぐらい、ホッケーが上手でした。少しラフなスポーツだったけれど、見ていて興奮しました。その日の夜は前日にMaxとHannahと一緒に作った誕生日ケーキを食べ、大学生の友達を20人ぐらい呼び、誕生日パーティーをしました。ピザを頼み、ボードゲームやゲームをして夜遅くまで盛り上がりました。オーストラリア人だけではなく、ヨーロッパやアジアなどから来ている人がたくさんいました。次の日はウェリントン山に登りました。山頂までは車で行き、たくさんの写真を撮りました。風がすごく強く、寒かったので日本と本当に真逆でした。2日目はボノロング動物園に行きタスマニアデビルやウォンバットを見ました。カンガルーにエサもあげました。HannhaとMaxとの最初の2日間は本当に楽しい時間となりました。
次に印象に残ったのは学校での生活です。初日は少し緊張していたけれど、すぐになじめて、友達もたくさんできました。授業の内容は日本よりもオランダに近く、グループワークが多く、一人一人がパソコンや携帯を持っていて、積極的に発表をし、話し合いが主な授業でした。学校では同じクラスの人が授業を案内してくれたり、一緒にランチを食べよう、と誘ってくれたり、フットボールに誘ってくれたりしました。学校内ですれちがうと声をかけてきてくれたり、挨拶をしてくれたりしました。HannahとMaxとの何気ない普通の生活やSacred Heart Collegeでの活動はすごく充実したものとなり、日本に帰るのが嫌になるくらい楽しい時間を過ごせました。

この派遣事業の最後に私がものすごく後悔したことがあります。それはHannahとMaxともっとたくさん話しておけばよかったと思ったことです。何気ない生活を送り、いろいろな場所に行って楽しんだけれど、もっと深い関係になっておきたかったと後悔しました。日本に帰ってからもHannahとMaxや学校の友達と会いたくなりました。ホバートで過ごした日々やHannahとMaxやSHCの学校の友達との出会い、焼津とホバートのつながりをこれからも大切にし、自分の人生につなげていきたいと思います。

題名　視野が広がった体験

学校名：焼津市立東益津中学校　　学年：2年　　氏名:栗山渚央

私は、ホバート短期学生派遣に参加して様々な体験をしました。その中でも印象に残ったことは２つあります。

１つ目は、人の優しさです。私は、今まで外国に行ったことがありませんでした。そのため、私の英語力でコミュニケーションがとれるか不安でした。しかし、私のホストファミリーはとても優しく、会話をする時にジェスチャーを交えてくれたり、ゆっくり話してくれました。そのおかげで私は、自信を持ってホストファミリーと会話をすることができました。休日には、ホストファミリーと一緒にサラマンカマーケットに行ったり、「THE RED DECKER」という２階建てのバスに乗って市内観光をしたりしたことが、とても楽しかったです。また、美術館に行くためにフェリーに乗ったときに2重の虹が見れたことはとても印象に残っています。綺麗だったので、ホストシスターとたくさん写真を撮りました。また、学校では同じクラスになった子たちや先生たちが積極的に話しかけてくれたため、ホストスクールデイを楽しく過ごすことができました。国が違っても、人の優しさは私を安心させてくれました。

２つ目は、環境問題への意識の違いです。地球温暖化による環境破壊が進み、今、日本ではプラスチックごみの削減をしようと国全体で努力しています。しかし、オーストラリアではプラスチックごみを削減する生活がすでに定着しているように感じました。例えば、機内食で使ったフォークやスプーンなどは全て木で作られていました。また、お店で何か物を買ったときも、入れてくれた袋は全て紙袋でした。お店に売っていた紙のコップやメモ帳もリサイクルされた物から作られていました。このホバート市の豊かな自然が守られているのは、オーストラリアの環境問題への意識の高さから来ているからだと思いました。

私はこの短期学生派遣を通して多様な文化に触れ、考え方や文化の違う外国の方と交流することで新たな視野が広がったと感じました。しかし、私の英語力ではまだ上手くコミュニケーションがとれなかったので、もっと英語を学んで、たくさんの人とコミュニケーションをとれるようになりたいと思いました。また他の国にも留学し、たくさんの文化に触れてみたいと思いました。この留学で得ることができた貴重な経験を将来に繋げていきたいと思います。

私を受け入れ、優しく接してくれたホストファミリー、私たちを歓迎してくれたホバート市の方、そして一緒に行った仲間など、たくさんの人に心から感謝します。本当にありがとうございます。

題名　自分に自信がもてた体験

学校名：藤枝東高等学校　　学年：１年　　氏名:小泉舞

私はホバートでたくさんの素晴らしい経験をすることができました。

私は小学校５年生の頃から英語を学び始めました。その頃から、英語を話すことがとても好きでした。日本にいると、外国人と話す機会はあまりありません。そのため、今回の派遣事業に参加したことは私にとってとてもいい選択だったと思います。

ホームステイ初日は、とても緊張しました。空港に着いてからは不安な気持ちが大きくなっていったけれど、私を暖かく迎えてくれたホストファミリーのおかげで、とても安心することができました。私の家にはホストシスターが５人いました。家に着いたら、一番下の子が私に笑顔で話しかけてくれました。英語を理解でき、私も返事をすることができたのがとてもうれしかったです。初日の夜はホストシスターの習い事についていきました。そこでも、初めて会ったのに私に優しく話しかけてくれる人がいてとてもうれしかったです。現地の人々はとてもフレンドリーでした。年齢関係なくみんなで楽しむ姿が日本人と違い、とても印象的でした。二日目からは観光をしました。ホバートは本当に美しい場所でした。焼津のように港や山があったため、親近感も感じました。マーケットで買い物をしたり、橋や滝を見に行ったりしてとても充実した時間を過ごせました。車での移動中、ホストファミリーが日本や私の家族について質問してくれることが多くてうれしかったです。ホストシスターは学校で日本語を習っているそうで、日本語を話してくれました。私たちが英語を学んでいるように、ホストシスターも日本語を学んでいるということがとてもうれしかったです。お互いの国の文化を紹介し合うことができました。四日目からは学校に通いました。日本でもしたことがないバス通学ができてとても幸せでした。外国の学校は日本と全く違うと学んでいたけれど、本当に全く違いました。生徒たちは本当に自由で、日本では考えられないようなことがたくさんありました。みんな本当に優しくてとても楽しい学校生活でした。授業中、私が英語を理解できないときにはホストシスターがプリントを見せてくれました。授業中であっても、私に話しかけてくれる生徒がたくさんいてうれしかったです。話すスピードが速かったけれど、英語での会話に慣れてきたため受け答えがだんだんとできるようになっていき、大きな喜びを感じました。日本語の授業ではオーストラリアのクイズを行い、たくさんの知識を得ることができました。ホームステイや学校生活を通して異文化を学ぶことができたことがとてもいい経験になりました。ホストマザーの作るタスマニアの伝統的な料理はとても美味しかったし、外国の学校に通うのは本当に楽しかったです。私の英語をホストファミリーが褒めてくれたことが本当にうれしかったし、一回で通じなくても理解しようとしてくれて私も諦めないで何度も挑戦することができました。ホストファミリーがいなければこんなにも楽しい旅になっていなかったと思います。

異国の地で過ごした時間は毎日が新しいことばかりでとても新鮮でした。ホバートで過ごした時間は本当に忘れられない大切なものになりました。不安も大きかったけれど、実際にホバートに行ってみれば楽しさで心がいっぱいでした。英語で外国人とコミュニケーションをとる楽しさを実感しました。自分の気持ちを英語で伝えるのは難しかったけれど、私の希望に対してホストファミリーが優しく対応してくれたのでとてもうれしかったです。短い期間だったけれど、自分の英語力が

伸びたと思います。恥ずかしがらずに積極的にコミュニケーションを取れるようになれたのが一番の船長だと思います。今回の旅で自分に自信がもてました。これからもたくさんの外国人と英語で交流をしていきたいです。そして、いつかホバートにもう一度訪れ、私の成長した姿や英語をホストファミリーに見てもらいたいです。

題名

貴重な人生の一ページ

学校名：焼津市立豊田中学校　学年：３年　氏名：宿輪渚心

私は、日常的な英会話を身につけたくて、このホバート短期学生派遣に参加しました。ホバートでの生活は、楽しく、とても貴重な体験になりました。

私は、ホームステイすることに不安は全く感じていませんでした。自分は英語が好きだし、学校での勉強も頑張っているのだから、現地に行っても、少しは聞き取れるだろうと思っていました。でも、実際に行ってみたら、自分が思っていたより何倍も英語のスピードが速く、発音も難しくて、全然聞き取れず、しゃべれませんでした。

それでも、私はめげずに自分の気持ちを必死に伝え、コミュニケーションをとろうと努力しました。ホストファミリーも、優しく、私の話を理解しようとして真剣に聞いてくれました。そのおかげで、最後の方は、ホストファミリーと意思の疎通ができるようになりました。最初は、伝えたいことも伝えられずに悔しい思いをしたのに、ホストファミリーと一緒に笑い合えるようになったことが、嬉しくて仕方ありませんでした。一緒に過ごした6日間のおかげで、私とホストファミリーの間に強い絆が生まれました。私は、この6日間で、「伝えることの難しさ」を強く実感したのと同時に、「伝わった時の嬉しさ」も深く味わうことができました。

私は、この旅の中で、オーストラリアの人々の温かさもすごく感じました。

どこで会う人もとても優しく，自分との時間を心から楽しんでくれていることが伝わってきて、とても嬉しかったです。学校の生徒のみんなも、積極的に話しかけてくれて、日本に興味を持ってくれていることがとても嬉しかったです。特に、目が合うと、ニコッと笑ってくれるところが、幸せな気分になって、とても良いと感じました。

日本にはない文化で、相手を楽しませようとしているオーストラリアの人のフレンドリーさが、とてもまぶしく、私もそうなりたいと思いました。

ホストファミリーと良い関係を築くことができたので、オーストラリアに行けてとても良かったと思っています。これからも連絡を取り合って、焼津とホバートの交流を続けていきたいと思います。

関わってくれた全ての人に感謝しています。これからもこの経験を生かして、色んなことにチャレンジしていきたいと思います。

題名　大切な思い出

学校名：静岡雙葉高校　　学年：1 年　　氏名:中嶋由凜子

私は、ホバート短期学生派遣で、本当に貴重な経験をしました。
まず私が感じた事は、ホバートには心優しい人が多いことです。初めてホストファミリーと会った時、私は緊張して上手く英語が話せませんでしたが、ホストファミリーはジェスチャーを使い、簡単な英語で話しかけてくれたので、私は英語で気持ちを伝える勇気を持てました。街中では、日本人の私に「楽しんで」と声をかけてくれる店員さんがいたり、学校でも翻訳した日本語を苦戦しながら読んで話しかけてきてくれる友達がいました。また、授業を中断して、私の為にタスマニアの有名な動物の名前当てビンゴをしてくれたことがとても嬉しく印象に残っています。オーストラリアの人はとてもあたたかくて、最終日はお別れが本当につらくて泣いてしまいました。
また、オーストラリアと日本ではやはり文化が全然違っていて、沢山の発見がありました。私が特に驚いたのは、家の窓に旅行の予定や絵を書くことです。家の窓がまるで黒板のようになっていて、面白かったです。学校でも、生徒の行動の自由さに驚きました。決まった席順ではなく、その時々で好きな席に座って授業を受けますし、ランチを食べる場所も自由で、私は羨ましく思いました。
そして、私が一番印象に残った事は、オーストラリアの人々の環境への配慮です。どのレストランでも必ず紙のストローが出されていましたし、スーパーでは紙袋が使用され、日常生活でプラスチックやビニール袋を目にする事がありませんでした。雄大な自然が周りに広がり、様々な動物と気軽に触れ合うことが出来るホバートだからこそ、自然を大切にする気持ちが強く、環境への意識が高いのだと感じました。私自身、ホストファミリーの家の近くで野生のうさぎや羊、ハリネズミなどを見つけて、こんなにも近くに自然を感じられることに感動し、同時にこの風景を守ることの大切さに気付きました。日本でももっと環境問題に意識を向けるべきだと実感し、まずは、日頃の自分の行動を見直そうと思いました。
この留学を通して、自分の英語力の低さ、環境への配慮や視野を広げることの大切さなど、本当に多くのことに気付き、学ぶことが出来ました。この経験を、これからの私の未来に向けて活かしていきたいです。このプログラムに参加させてくれた両親、企画をしてくださった方々、そしてホストファミリー、オーストラリアの方々に心から感謝しています。
本当にありがとうございました。

題名　一生の思い出の９日間

学校名：藤枝東高等学校　　学年：２年　　氏名:中村　杏

私がこの短期留学に参加しようと思ったきっかけは、以前、タスマニアからの留学生の受け入れを通して英語を好きになり、自分もタスマニアへ行き、様々な人と関わって国際的な視野を広げたり、英語を話す楽しさを実感したりしたいと思ったからです。

私のこの短期留学の９日間はあっという間に過ぎてしまい、私にとってとても有意義な時間となりました。私はタスマニアへ行く前、ホストファミリーと会話が出来るかどうかの心配や知らない人の家へ泊まることへの緊張、家族と離れて生活することへの不安などが多くありました。しかし、実際に滞在先の家へ行くと、ホストファミリーや犬達が私を温かく迎えてくれたり、私に明るく話しかけてくれたので、緊張や不安などはすぐにどこかへ飛んで行き、楽しい日々を送ることが出来ました。その中でも特に思い出に残っている２つの思い出について紹介させていただきます。

１つ目の思い出は、以前私が焼津で受け入れた留学生のポピーと再会し、半日を一緒に過ごしたことです。私達はボノロング動物園へ行き、タスマニアデビルやワラビーなどを見たりカンガルーの餌やりを行ったりしました。また、ウォンバットを抱っこすることができ、日本の動物園よりも動物達と身近で触れ合う貴重な体験をしました。私はポピーと会うのは５年ぶりで緊張しましたが、動物達と触れ合ったり、ホットチョコレートやパン、お菓子などを一緒に飲んだり食べたりすることで緊張が消え去り、思い出のある時間を過ごしました。

２つ目の思い出は、ホストファミリーと過ごしたことです。私はホストファミリーとサラマンカマーケットやスーパーマッケットなどで買い物を楽しんだり、美味しい食べ物を分け合って食べたりしました。夕食では、日本の文化や行事、焼津のこと、タスマニアのこと、そしてお互いの家族のことなど色々なことを話しながら食事を楽しみました。忙しい時でも、時間をかけてサラダやミートパイ、スープなどの美味しい料理を作り、私に振る舞ってくれたホストマザーとホストファザーには感謝の気持ちでいっぱいです。また私のホストシスターの「Evie」は、私よりも背が高く大人っぽく見えますが、実際は私よりも３歳も年下なのに、親切で気立てが良く、姉のような感じでした。私が英語を上手く聞き取れなかったり、質問の意味が分からなかったりすると、ゆっくり話しかけてくれたり翻訳機を使ったりするなど親切に対応してくれました。私は向こうでの滞在中に何度も彼女の優しさや明るさに元気をもらいました。

今日、海外へ行くのには莫大な費用や労力がかかり、海外へ行くことは容易ではなくなっています。そのような中で私は１６歳という年齢で海外へ行き、ホームステイという貴重な体験が出来たことは、一生の強みになると思います。この交換留学を計画、運営、サポートして下さった市の職員の方々、引率の椎名先生、ホバート市の方々、ホストファミリー、そして自分の家族にもう一度感謝を伝えたいです。ホバート市と焼津市の友好関係がこれから先もずっと続いていくことを願っています。また、私が大人になったらもう一度ホバートへ行き、ホストファミリーや友人達と再会したいです。本当に貴重な９日間を私にくださりありがとうございました。

題名　日本との違い

学校名：藤枝明誠高校　学年：1年　氏名：橋本 陽菜

私がホバート短期留学派遣に参加させて頂いた理由は二つあります。
一つ目は、日本との違いを肌で感じとること。
二つ目は、断然、英語に興味があったからです。
ホバートで過ごした10日間は、初めて見るものや体験することが多くてとても刺激的で忘れられない貴重な経験になりました。

現地に着くまでは自分の英語が相手に伝わるかなど不安も多かったのですが、ホストファミリーがとても優しくて常に自分のことを気にかけて下さり、振り返ってみると打ち解けるまではとても早かったと思います。

初日の夕食でレストランに連れて行ってもらった時は、メニュー表で分からない料理があると翻訳アプリを用いて説明してくれたり、私のことや日本のことを理解しようとしてくれました。またご飯の量が多くて食べきれず申し訳ない気持ちになりましたが、ホストマザーが「残して大丈夫だよ！」と言って下さり日本と違って食べ物を残すことに対して抵抗がないオーストラリアの文化に驚きました。

ホームステイしながら平日は、現地の学校に通い日本とオーストラリアの学校教育の違いを体感しました。日本の学校は教師が生徒に教えていくスタイルですが、オーストラリアではグループ討議の中で意見を言い合い進めていきます。すなわち、主体性が求められます。相手の意見も尊重しながら、常に自分で物事を考え、意見を発表していきます。この授業が私はとても新鮮で充実した時間を過ごすことができました。

休日は野生動物公園に行ったり、地元のスーパーマーケットなどさまざまな所に出掛けオーストラリアのおすすめなお土産や食を学んだり、緑豊かな自然を感じたりすることができました。

ホームステイをしながら異文化の生活を体験することで、新しい出会いや自分の知らない英語表現を学ぶことで、英語を使ってコミュニケーションをとる楽しさを再認識し、これからも英語を勉強していくにあたり、モチベーションを高めていくことが出来ました。また、将来の選択肢の幅も広げることが出来ました。

この度は、大変貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。

題名　貴重な経験が詰まった短期留学

学校名:静岡市立高校　　学年:2 年　　氏名:福田　吏陽

私にとってこの留学は飛行機に乗ることすら初めてのとても緊張感のあるものでした。パッキングですら、親に頼りっきりで行く前は楽しみより不安な気持ちの方が大きかったです。空港ではいくつか失敗をしてしまいました。
いよいよホストファミリーに会う時、みんなで初対面の挨拶をたくさん考えました。ホストファミリーのお家に着いた日は、お土産を渡して自分なりにも伝わりやすい正確な英文を頭の中で作り、時間がかかりながらも話そうとしました。でも、その日の夜 1 人になった時、とても疲れてしまいました。
2 日目以降は思ったことを単語でもいいからすぐに伝えるようにしました。短い会話だったけど、自分的にその方がとても充実したコミュニケーションが取れたと思います。
ホストファミリーデーでは家族で動物園に行きました。ガイドさんが説明してくれたことは全くわからなかったです。ホバート市はとても自然豊かなところで、お家の周りもとても空気がよく素敵でした。2 日目の夕方ごろから 3 家族合同パーティをしてくれました。それぞれのホストファミリーともたくさん話せてよかったです。学校でも周りの子があたふたしている私に何度も繰り返し言って伝えるようにしてくれたのがとても嬉しかったです。
1 週間海外の文化に触れて感じたことがたくさんあります。学校では特にたくさん感じることができました。日本になくてとてもいいなと思ったのは生徒と先生の距離感です。オーストラリアには先生を敬うという気持ちは忘れず、聞きたいこと、疑問があったらすぐに聞くようにしていました。その方が理解しやすいし、覚えやすいのではと感じました。また、聞くだけではなく参加型の授業が多かったです。常に自分たちで考え、周りと協力しながら答えを出し、最後に先生が正答を言う感じでした。とても主体性を感じました。
他には食事のことです。1 番印象的だったのはランチボックスです。ボックスは普段使っているものよりも、とても大きく、仕切りがたくさんついていました。前日に自分の好きなものを詰めて学校にそのまま持って行きました。他にも、家が大き過ぎることや、パーティが大好きなどどこに行っても驚くことばかりでした。
ホバート最終日前日はホストシスターと市内観光をしました。ホバート市についてはもちろんたくさん知れたし、ホストシスターともぐっと距離が縮まり、とても充実した 1 日でした。
最終日の午前中は留学生みんなでシドニーを観光しました。大都市だけあってとっても海外を感じました。綺麗な景色ばかりで、ずっとカメラを構えていました。
この留学は私にたくさんの刺激を与えてくれました。視野を大きく広げてくれてとても良い経験になりました。絶対に無駄にしないようこれからの高校生活も続けて行きたいです。

題名　ホバート市での体験

学校名：藤枝明誠高校　　学年：1 年　　氏名:増田真歩

私はこのホバート短期学生派遣でたくさんの貴重な体験をすることができました。私は将来、英語を使った職業に就きたいと考えているため、直接外国に行って生活をするというこのプログラムはとても良い経験になったと思います。

ホバートでの生活の中でできたいちばんの思い出はホストファミリーと色々な場所へでかけたことです。初めてホストファミリーと会った時、緊張して会話をすることがあまり出来ませんでした。移動中の車の中も沈黙が続いて、大丈夫かな、と不安にもなりました。しかし、レストランや動物園などに行くうちに、自然と会話ができるようになりました。ご飯が美味しい、動物が可愛い、など簡単な英語を使って積極的に自分の気持ちを伝えられるようになりました。そのおかげでホストファミリーも私にたくさん話しかけてくれるようになりました。車の中も初めとは変わって、誰かが歌を歌っていたり、会話をしていたりとまるで本当の家族になったような気分でした。

二番目の思い出は馬車に乗ったことです。
ホストファミリーとの生活の一日目、ホバートの街をホストファミリーと歩いていた時、馬が歩いているのをみつけとても驚きました。日本ではなかなか見られない光景に改めて自分が外国に、オーストラリアのホバート市にいるんだということを実感しました。その日はサラマンカマーケットという市場に行き、レストランで昼食を食べました。レストランでたくさん話をしました。日本のこと、焼津市のこと、お互いの生活についても教え合いました。また、私がホバート市で感じた日本との違いなども積極的に伝えました。
ホストファミリーとの会話に慣れてきた三日目、ホストマザーが、今日は馬車に乗るよ！と私に言いました。私が馬車を見て珍しいと言ったことを覚えてくれていました。
拙い英語でもじっくり聞いてくれて、それを覚えておいてくれたことがとても嬉しかったです。馬車に乗ると御者の方も話しかけてくれました。ホストファザーが日本から来たということを説明すると、特別にと隣の席に座らせてくれました。こんなこと日本ではなかなかできないと感じてとても楽しかったです。馬車に乗っていると街を歩く人がみんなが手を振ってくれました。現地の人とも直接でなくてもコミュニケーションをとることができました。

この派遣事業を通して感じたことは、自分の英語がまだまだだということです。ホストファミリーが簡単な英語で、ゆっくり話してくれるから理解できることはありました。しかし、知らない単語が出てきたり、普通の会話のスピードで話されるとそう簡単には理解ができないと思います。もっと勉強しないといけないと感じました。しかし、それが全く嫌ではありません。素晴らしい体験ができたからこそ、前向きに勉強することができます。

最後に、この派遣事業に関わる全ての人、私を家族の一員として受け入れてくれたホストファミリーに感謝します。この経験を絶対に将来に活かします。

題名　　一生の思い出

学校名：清流館高校　　学年：3 年　　氏名:山田彩心

私は今回ホバート短期学生派遣に参加させていただき、多くの貴重な経験をすることができました。初めての海外、さらに一人でホームステイをするということで出発前は緊張と不安でいっぱいでした。しかし、空港でホストファミリーが笑顔で暖かく迎え入れて下さり、とても安心したのを覚えています。一日目の夜、夕飯はホストファーザーが作ってくれたパスタをみんなで食べながら、たくさんお話をしました。私の拙い英語もちゃんと最後まで聞いてくれて、私が理解するまで何度も質問を繰り返してくれる家族の優しい姿勢がとても嬉しかったです。その後、みんなでお寿司の知育菓子をつくったりゲームをしたりして遊びました。ホストブラザー達は扇子をとても喜んでくれ、かっこいい開き方をすぐにマスターしていました。猫の Nova もすぐになついてくれて、とてもかわいかったです。週末は、サラマンカマーケットやウェリントン山などたくさんの場所に連れて行ってもらいました。特に動物園でカンガルーに手からえさをあげたのがとても楽しかったです。ホストシスターとたくさん笑ってより距離を縮めることができました。夕飯はおばあちゃんとおじいちゃんがとってもおいしい料理をふるまってくれました。オーストラリアでの食事は口に合わないことなく、全てナイフとフォークで少し苦戦しましたが、すぐに慣れて食事を楽しむことができました。学校の日、ホストシスターの友達がみんな外で待っていてくれて、私を歓迎してくれました。プレゼントを用意してくれていた子もいて、嬉しかったです。ランチは和気あいあいとした雰囲気でとても楽しかったです。お別れの時は、本当に寂しくてずっとここにいたいという気持ちでいっぱいでした。また絶対にホバートに行きたいです。最終日には日本の友達と話しているとき、みんな自然と英語が出てきてしまっていることに、面白さと成長を感じました。
オーストラリアは街中や学校で目が合うと知らない人も必ずみんなニコッと笑いかけてくれることに異文化を感じながらも、現地の方の暖かさを感じました。そして、移民国家であるオーストラリアは街や学校の様子からも多文化共生が浸透していると再確認することができました。日本にもそんな意識が浸透していくよう、今後私は多文化共生教育について学びを深め、私にできることを積極的に行っていきたいと考えています。また、伝えたいことを自分の言葉で表現できるよう、英語をもっと学んでいきたいです。
私はホストファミリーや学校の友達など出会った全ての人に恵まれて、オーストラリアでの出来事が大きな宝物になりました。ホストファミリーに出会えてよかった、このプログラムに参加してよかったと心から思っています。この出会いに感謝をして、これからも人との関わり、コミュニケーションを大切にしていきたいです。貴重な機会と経験をくださった全ての関係者の方々、背中を押してくれた家族、学校の先生、出発前不安を和らげあった日本の仲間、また、私を暖かく迎え入れてくれたホストファミリーに感謝しています。本当にありがとうございました。

題名　Let’s enjoy 国際交流！！

学校名：　大井川中学校　　学年：３年　　氏名:吉田　帆花

私は、ホバートでたくさんのことにチャレンジし、かけがえのない経験をしました。そして、とても充実した９日間を過ごすことができました。

１日目と２日目は思うように英語を使うことができず、ホストファミリーにたくさん迷惑をかけてしまいました。それでもホストファミリーは私の英語に耳を傾け、一生懸命私のカタコトな英語を聞いてくれました。ホストファミリーとは自分の家族のことや焼津の話をして盛り上がりました。

休日は、本当に色々な場所に連れていってもらいました。市場や海に行ったり、山にハイキングに行ったり、BBQ をしたり日本では経験することのできないことを経験させてもらいました。

本当にすべての経験がいい思い出ですが、私はホバートの学校へ行ったことが一番の思い出です。学校ではたくさんの人と友達になって、一緒にランチをとったり、日本のことについて話したりしました。学校には売店があり友達になった子がカップケーキやポテトチップスをおごってくれました！最後のスクールデイには、たくさんの人が私にメッセージカードを書いてくれたり、写真をとってくれたりしました。ホバートでできた友達とは SNS を通じて今でも連絡を取り合っています。日本では、友達は会いたいと思ったらすぐに会うことができるけど、ホバートでできた友達とは会いたいと思っても会うことが難しいので、もっと写真を取ったり、話しておけばよかったと後悔しています。これからもホバートでできた友達と友好関係を築いていきたいです。そして、もう一度会っていろいろな話をしたいです！

ホバートでの経験は私を大きく成長させてくれました。そして、英語を学ぶことの大切さを実感させられたので、これからの英語の勉強に力をいれていきたいです。私がこの交換留学で本当に大切だと思ったことは、自分から行動することです。私は、この９日間色々な人に自分から話しかけに行ったり、たくさんのことにチャレンジしたりしました。その結果たくさんの人と交流をしたり、いろいろな経験をしたりできました。

この交換留学で培ったものを、これからの私の人生に生かしていきたいです。そして、ホバートと焼津市の友好関係がこれからも続いてほしいです。

題名　TSUNAGU

学校名：藤枝東高校　　学年：2 年　　氏名:良知ほのか

私はこの派遣を通して、沢山の貴重な経験ができました。初めての海外ということもあり、はじめの頃は少し緊張していましたが、本当にあっという間の一週間でした。

私が中学生だったときの先生が言っていたように、ホバート市の人達は本当に優しかったです。買い物をしたときに、お店の店員さんが気軽に話しかけてくれたり、ホストシスターの習い事の見学に行った際、寒さに一生懸命耐えていたら近くにいた人が、それに気づいてブランケットを貸してくれたりと、見ず知らずの私にも明るく優しく接してくれました。とても嬉しかったです。

ホストファミリーは私を温かく迎え入れてくれました。家では一緒にボードゲームをして遊んだり、クッキーを焼いたりしました。また、沢山の場所に連れて行ってもらいました。サラマンカマーケットやボノロング野生動物保護区、マウント ウェリントンなど。また、劇場で国立の団によるコンテンポラリーダンスの公演も観させてもらいました。貴重な体験をさせてもらったり、様々な所に連れて行ってもらったり、とても感謝しています。

学校生活も日本の学校と違うところがあり、とても面白かったです。ドラマ（演劇）の授業はとても新鮮でした。グループごとに生徒同士で意見を出し合いながら、全員が主体的に取り組んでいました。生徒の皆さんは皆優しく接してくれて、友達も沢山できました。

放課後にはホストシスター達の習い事の見学に行きました。学校が比較的早く終わることや、特に宿題が出されているようでは無かったため、多くの時間を習い事に充てていました。日本の学校のように学校で決められた課題をやることも大切ですが、習い事等自分のスキルを上げる時間を沢山確保することができる環境はとてもいいなと思いました。バスケットボールの練習を観に行った時、ホストシスターの祖父母の方もいて、試合の合間には一緒にバスケットボールをしました。

日々の生活を送る中で、自分の英語力をもっとあげる必要があると改めて感じました。自分の思いを具体的に伝えられなかったことや、細かいニュアンスを伝えることにとても苦労しました。それでも、身振りを交えながら一生懸命伝えようとしたら、優しいまなざしで聞いてくれて沢山会話をすることができたのでとても嬉しかったです。これからも英語の勉強を頑張ろうと強く思いました。

帰国してからも、ホストファミリーとよくメールを送り合っています。いつか日本に行ってみたいと言ってくれたので、そのときは私が焼津の案内をしたいと思いました。

これからも、この派遣を通してできた、人と人との繋がりを大切にしていきたいと思います。こんな素敵なホバート市と焼津市の友好関係を続けていくためにも、また、焼津に住んでいながらも姉妹都市であるホバート市についてあまりよく知らない人にも、ホバート市について知ってもらえるように自分にできることをしていきたいです。